

セミナー報告書

催事名	第2回スマートウェルネス・オープンセミナー		
開催日時	2013年12月10日 13時30分～15時20分		
開催場所	グランフロント大阪 タワーC 7階 Osaka Innovation Hub		
参加人数	77人	参加者 属性	医療関係者（医療機器メーカー、医者、病院関係者など） 情報系企業、大学関係者、地方公務員等々
開催団体	主催 共催 後援	スマートウェルネス研究会 大阪市、公益財団法人都市活力研究所 大阪大学臨床医工学融合研究教育センター、大阪府、 大阪商工会議所、近畿経済産業局、関西経済連合会	
開催報告	プログラム	<p>(13:30～13:35)</p> <p>「Osaka Innovation Hub」の意義・役割について 大阪市都市計画局 産学官連携担当課長代理 東野 由起子</p> <p>(13:35～14:00)</p> <p>セミナーⅠ 「日立の粒子線治療事業への取り組み」 株式会社日立製作所 電力システム社 放射線治療推進本部 放射線治療ソリューション部 担当部長 淵上繁記</p> <p>(14:00～15:00)</p> <p>セミナーⅡ 「粒子線がん治療」 名古屋陽子線治療センター センター長 溝江純悦</p> <p>(15:00～15:20)</p> <p>セミナーⅢ 「養生生活支援ビジネスの可能性」 スマートウェルネス研究会 事務局 卯津羅 泰生</p>	
	講演内容 および 講演者 プロフィール	<p>【セミナーⅠ】 「日立の粒子線治療事業への取り組み」 (講演者プロフィール)</p> <p>1984年、株式会社日立製作所（以下、日立）に入社。電力事業関係の業務に従事し、2002年より放射線治療推進本部にて粒子線治療事業に従事し、国内およびアジアマーケットを担当。</p> <p>(講演内容)</p> <p>日立の粒子線治療事業についての具体的な取り組みを紹介した。本事業に取り組むこととなった経緯および歴史などについて詳細に</p>	

説明。また、粒子線治療施設が備えるべきハード面の要注目点について詳しく解説した。

【セミナーⅠⅠ】 「粒子線がん治療」

(講演者プロフィール)

1972年、北海道大学医学部卒業。同年同大学附属病院に勤務。
 1983年、スイス国立核研究所にて負パイ中間子線治療に従事。
 1991年、独立行政法人放射線医学総合研究所障害臨床研究部室長
 2003年、同研究所重粒子医科学センター病院長を歴任し
 2010年、イタリア国立粒子線がん治療センター勤務。
 2012年より現在に至る。

(講演内容)

粒子線によるがん治療について詳しく説明があった。本治療は患者の身体への負担が軽くQOLに優れた治療方法として現在注目を集めている。粒子線とX線の違いから始まり、治療に実際に使われる放射線について物理学的特徴および生物学的特徴をわかりやすく解説。米国および日本の粒子線治療の歴史についても触れ、導入経緯を説明。欧州での治療実例を引き、X線治療との差異について詳細に解説を行った。また、前立腺がんや肺がんに対する治療についての効果の解説もあり、本セミナーは一般向けであるにもかかわらず、かなり専門的な内容となったため、アンケートによれば出席者の満足度はかなり高いものとなった。

【セミナーⅢ】 「養生生活支援ビジネスの可能性」

(講演者プロフィール) 淀川キリスト教病院 課長

(講演内容)

がん治療後、特に粒子線治療後やBNCT治療後などの健康維持・健康増進・健康管理および養生生活支援や癒しサービス提供等を目的とした、新生活支援サービス事業の創出の提案を行った。
 これを「癒し養生生活支援サービス」と称し、スマートウェルネス技術やパーソナルヘルスケアレコードなどのデータベースを駆使したビジネスモデルの解説を行った。本事業創出の具体的な検討については、後日立ち上げる同分科会にて行う予定。
 最後に、質疑応答の時間を設け、フロアの熱心な参加者(延べ7人)から粒子線治療の内容や現況についての質問があり、講演者と活発な意見交換が行われ、大変有意義なセミナーとすることができた。

【開催風景】

